

第60回 ヨーロッパ中世の都市

1 商業の復活

- 11世紀以降に農業生産が増大したことは、多くの余剰生産物を生み出した。
→余剰生産物の交換は交易を活発にし、()が再び普及し始めた。
- また十字軍の影響による交通網の発達により、()を行って栄える都市もあらわれた。
- このような商業や都市の発展を、()と呼んでいる。

2 中世の都市

- 中世都市は、もともと教会の司教が置かれていた司教座都市から発展し、国王や諸侯など封建領主の支配を受けていた。
→しかし交易が盛んになると定期市を開いて経済力を持つ都市が登場した。

- イタリアの()は、周辺地域も支配して都市国家となった。
- ドイツ地域では、神聖ローマ皇帝の()を得て皇帝直属の()となり、諸侯と同様の地位を獲得した。
→これらの自治都市は、都市同盟を結んで自分たちの自治を守ろうとした。

() …北イタリアの都市同盟で、ミラノを盟主とした。

() …北ドイツの都市同盟で、()を盟主とした。



ミラノ

ロンバルディア地方の中心都市で、現在でもイタリア最大の商業都市である。世界史では、何といてもミラノ勅令で有名である。



ハンザ都市リュベック

ユトランド半島のつげね(東側)にあるリュベックは、北海・バルト海交易の拠点であった。写真は町の象徴ホルシュテン門である。



ハンザ都市ブリュージュ

フランドル地方のブリュージュは、毛織物工業で栄え、ハンザ同盟の有力都市となった。現在のベルギーにある。

3 都市の自治

- ・西ヨーロッパの自治都市は、周囲を城壁で囲み、市参事会による自治を行った。
- ・「」といわれ、都市に逃れてくる農奴もいた。
- ・都市の自治を行っていたのは、()と呼ばれる同業組合であった。

- ・最初は貿易を行っている大商人の()が政治を独占していた。
→これに対して手工業者は、()を結成して商人ギルドと対抗した。
※この対立を()という。
- ・この同職ギルドには、正式な構成員である親方以外に、職人・徒弟という厳しい上下関係や制度があり、また加盟せずに自由な商売を行うことは禁止されていた。
- ・都市の自治が認められる一方、金融業を行う()への迫害も行われた。



ハンザ都市ブレーメン

ハンザ同盟の有力都市ブレーメンは、帝国都市として左の市庁舎を中心に自治を行っていた。現在のドイツにある。



ブレーメンの音楽隊

ブレーメンといえば、何と言ってもグリム童話のブレーメンの音楽隊でよく知られる。ただし音楽隊もギルドであった。



徒弟制度

ギルドにおける徒弟制度は、品質の維持や技術の伝承に貢献した。しかし新しい技術の開発を阻害する面もあった。

- ・都市の有力者の中には、政治や文化に影響力を持つ者もあらわれた。
()…中部イタリアの()を本拠地とする金融業者。
多くの芸術家を保護したことでも知られる。
- ()…南ドイツの()を本拠地とする金融業者。
特にヨーロッパの銀を支配し、皇帝選挙にも影響を与えた。



ゴジモ=デ=メディチ



ロレンツォ=デ=メディチ

メディチ家は、祖父のゴジモの時代に大いに発展した。孫のロレンツォは、ポッティチェリやミケランジェロを保護し、ルネサンスで大きな役割を果たした。



フッガー家



カール5世

カール5世が神聖ローマ皇帝になれたのは、左のヤコブ=フッガーが資金援助をしたためである。しかし大航海時代が本格化すると、徐々に没落していった。

4 西ヨーロッパ封建社会の崩壊

- ・農村社会では、徐々に土地のすべてを農民保有地にして、生産物を地代として納めさせる純粋荘園（地代荘園）が広まっていった。

- ・貨幣経済が浸透すると、地代は生産物から貨幣へと変わっていった（貨幣地代）。
→13世紀以降、貨幣をたくわえて経済力を持った農奴の一部が解放されて自分の土地を持つ自営農民になるなど、()が進んでいった。
※イギリスの()が有名である。
→これは荘園の崩壊につながり、荘園を持っていた諸侯や教会などの領主が衰退していくことを意味した（封建制の危機）。